

教育環境整備協議会における青山台小学校 PTA の要望（案）

I 青山台地区コミュニティの拠点としての小学校の整備

「千里ニュータウン再生指針」に対して、青山台小学校 PTA として、学校づくりとまちづくりを合わせて構想し、青山台小学校を拠点として、新たな3世代日常交流の空間（学校）をつくることを提言しています。

（参考資料参照）

これに加えて、災害避難場所としての小学校の整備、住区民・地域のサポート体制の構築が望まれます。

II 青山台小学校と北千里小学校統合に際しての教育環境整備要望

1. 青山台小学校教育施設整備

（1）校舎の建替えもしくは全体のリフォーム

- ・ 正面玄関エントランスをきれいにしてほしい。
- ・ バス通りに正門の位置の変更。
- ・ 校舎が迷路のようで教室がわかりにくい。
- ・ 職員室から運動場が見えず、職員室と教室の距離も遠くて不便。安全性も危惧される。
- ・ 校舎が暗い。外装の再塗装。
- ・ 校舎全体に天井が低いため、非常に圧迫感がある。

建替えができないのであれば、照明や塗装などで圧迫感を少なくなるように改装していただきたい。

（2）トイレ及び手洗い場の改装

- ・ トイレ及び手洗い場をカラータイル等で清潔感のある明るいきれいな施設に改装していただきたい。
- ・ 低学年、学童学級、職員室横のトイレ等が古く、暗い、汚い、臭い等の問題があり、便器、床、壁など全面的な改修をお願いしたい。
- ・ 各トイレのドアの高さが低すぎる。また、窓に面しているトイレでは外から見えそうである。
- ・ 手洗い場の水道蛇口も古くなり使いにくい

(3) 教室の整備

- ・ 教室内の内装も古さがめだつので明るくしていただきたい。
- ・ PTA 室の整備。床面の張り替え。
- ・ 各教室の扉、教室内の手洗い場をきれいにしていただきたい。
- ・ 教室の冷暖房完備。天井設置型扇風機だけでも設置していただきたい。
- ・ 更衣室を設置していただきたい。

(4) 学年玄関・廊下の整備

- ・ 各学年玄関が暗く、下足箱も古く、長靴が入らない。
- ・ 教室前の廊下が黒ずんで老朽化が進んでいる。
- ・ 廊下に排水口がないため、デッキブラシで掃除しても水を流せない。
- ・ 廊下から下の階に水が漏れる。
- ・ 廊下の給食袋、体操服のフック。

(5) 体育館・プールの補強改修

- ・ 歩くときしむ床の補強。
- ・ 耐震性の確保（体育館地盤の沈下）。
- ・ 地域のスポーツクラブ等も使いやすい体育館にしていきたい。
- ・ 体育館前の階段部分のタイル剥離・ヒビ割れなどの改修・修理。
- ・ プールの底が破損していて危険。

(6) 中庭の整備

- ・ 体育館横の水性生物観察池や鳥小屋の整備
- ・ 金網フェンスの更新。

(7) 安全・セキュリティの充実

- ・ 侵入者が乗り越えにくいフェンスや門扉に更新。
- ・ 生徒の学校入退出システムの導入。
- ・ 南門の警備員の常時配置。門の高さを高くしていただきたい。
- ・ 学校の場所がわかりにくい。バス通りから小学校がわかるようにしていただきたい。

(8) その他

- ・ 屋上緑化、ソーラー発電、ビオトープ等。
- ・ 2階の教室への給食運搬の改善。
- ・ 図書司書の常駐。
- ・ 学童を6年生まで受け入れていただきたい。
- ・ 校内の一角に芝生スペースを作っていただきたい。
- ・ 職員室、校長室をきれいにしていただきたい。
- ・ 宿直室にエアコン、ガスを整備していただきたい。
- ・ 遊具の整備。
- ・ 校内植樹の内、「空洞のあるポプラの木」の伐採。

2. 教育支援および学校支援

(1) 単学級の解消。

単学級となる場合でも、複数年度は複学級に編成していただきたい。

(2) 教員の加配。

(3) 学校維持費の増額。

3. 通学路等の安全対策

- ・ くちなし公園内通学路の伐採
- ・ その他、教育委員会に危険箇所の改善ということで、既に依頼済。

■参 考

「千里ニュータウン再生指針」に対する青山台小学校 PTA の提言

高齢化と少子化の進む千里ニュータウン地域にあって、ニュータウンの再生は「人のつながり」を再構築することに尽きると考えられます。ニュータウンは、学校（子ども）を通して大人が結びつきを深め、地域が活性化し、発展してきたという経過があり、さらに、基本方針 P 1 1 の「近隣住区の再評価」にあるように、ニュータウンのまちづくりの手法（近隣住区論）が、高齢化の進展もあわせて新たに見直されています。

また、基本方針 P 1 7（5）子育て・高齢者にやさしいまちのあり方では、「質の高い子育て環境の整備」「地域で支えあうコミュニティの形成」「高齢者支援の充実」という観点から、方向性が示されており、これらを踏まえて、これからのニュータウンのあり方について提言します。

私の住区である青山台地区は、吹田市でも高齢者率の高い地域とされています。同時に少子化が進み、住区の拠点であるべき小学校の児童数は180名というように、高齢化と少子化が並行して進んでいます。この状態を放置しては千里ニュータウンの再生などありえないと考えられます。かつて青山台小学校は地域コミュニティの拠点であり、ここでの人々のつながりがまちづくりと地域活性化に結びついてきました。高齢化が進む今日において「学校を地域コミュニティの拠点に」という考え方はとても重要です。高齢者の居場所づくりや生きがいづくりは、高齢者だけが別の空間で生活するのではなく、子どもや孫の世代と一緒に生活する場面がたくさんあることによって実現化されるのではないのでしょうか。

青山台小学校は既に43年を経た老朽化した校舎となっています。また、それが統廃合に関わり統合校になることへの懸念も大きな声としてあります。ニュータウン再生の観点から学校の役割を見直し、「新しい文化を創造する」ことも含めて、少子化とゆとりある校舎敷地の小学校をあらたな発想で建て替えるということを提言します。180名程度の子どものための学校建替えではありません。この地域の特性と課題を見すえて、高齢者の居場所となるべき施設と子どもたち、そしてその保護者が、あらたな発想で運営される小学校という場所でつながりを深めていくための施設として、3世代日常交流の空間（学校）をつくるというご提案です。子どもたちが日常学ぶ施設に、地域の人々のコミュニティ施設を併設し、図書館や体育館、集会室、レストランなどを整備します。高齢者の方々の趣味やつながりを深めるための場所があり、学校との共有スペースでは地域の知恵袋というべき高齢者と子どもの日常的な交流の姿があり、子どもの親たちも子育ての知恵をいただくことができます。

以上、千里ニュータウン再生について、学校づくりとまちづくりを合わせて構想し、青山台小学校を拠点として、新たな3世代日常交流の空間（学校）をつくることを、吹田市ならびに再生連絡協議会に提言します。